

神戸大学における大学と附属学校園の連携研究

岡部 恭幸

1. はじめに

神戸大学には、現在、幼稚園、小学校、中等教育学校、特別支援学校の四つの附属学校園が設置されている。

神戸大学は、平成21年度から他の国立大学に先駆けて「附属学校再編計画」に取り組んでおり、令和2年度に完成年度を迎えた。神戸大学附属学校再編計画とは、それまでの組織であった神戸大学発達科学部附属住吉小学校・附属明石小学校の2校を神戸大学附属小学校1校に統合するとともに、神戸大学発達科学部附属住吉中学校・附属明石中学校の2校を神戸大学附属中等教育学校1校に統合・発展させた。この再編によって、再編前と比較して、学校規模(学級数及び定員)でおおむね3分の2程度に、教員数でおおむね6分の5程度にそれぞれ縮小した。その結果、初等・中等教育における全ての学校種(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)に加え、特別支援学校を有することとなり、このようにすべての校種の附属学校を持つ国立の総合大学は全国でも少数であり、その中でも中高一貫校(中等教育学校)をも有しているのは全国で本学のみである。

2. 近年の神戸大学附属学校園の教育と研究

近年の附属学校園の教育と研究の成果は以下のとおりである。

■附属幼稚園及び小学校が文部科学省研究開発学校の指定を受け、文部科学省及び全国の有識者からの指導助言を踏まえ神戸大学(主に人間発達環境学研究科)と連携して幼稚園教育と小学校教育の一体化に関する研究を平成31年度まで継続して進めた。

■附属特別支援学校にインクルーシブ教育の具現化と特別支援教育の機能向上を図るために「特別支援教育発達研究センター」を平成28年に設置して研究・教育を進めた。

■附属中等教育学校が文部科学省研究開発学校の指定を受け、文部科学省及び全国の有識者からの指導助言を踏まえた地理・歴史科の新科目に関する研究を令和2年度まで継続して進めた。

■平成30年から附属小学校が国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構の委託事業「マノスク国際学校教育環境改善のための調査」を受託し、大学と連携しながら教諭1名をフランスのマノスク国際学校に派遣し、現地児童の状況調査及び附属小学校での知見をもとに授業を実施、さらにそれを通じた改善計画の提案などを平成31年度まで行った。

■附属中等教育学校が「生涯を通じて新たな価値を創造し続ける文理融合型人材の育成 — Education for 2070 —」を研究開発課題として、文部科学省スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受けたことにより、神戸大学の各研究科と連携しながら先進的な理数系教育を進め、将来的に国際的に活躍しうる科学技術人材の育成を図る研究を開始した(令和6(2024)年度まで)。

■附属小学校の学年担任制等の改革を含む実践的な取組「神大附属発！真・働き方改革～教師を支える6つの仕組み」が独立行政法人教職員支援機構「令和3年度表彰事業第5回NITS大賞「子供一人一人が輝ける場となるように～教師の働きがい」を再構築する学校づくり～」で準大賞を受賞した。

3. 研究大学の附属学校園として

神戸大学附属学校園では、研究大学の附属として、学術的な研究にも積極的に取り組んでいる。

毎年、科学研究費助成事業(奨励研究)に4校園を合わせ、30件程度の申請が行われている。採択件数は、2007年から2021年の間で4校園合わせて43件となっており、附属学校教員に教育研究に関する資質や能力の向上に繋がっている。

さらに、大学との連携プロジェクト研究の実行及びそのための外部予算獲得、大学と連携した研究成果の発信を目的として附属学校部内に大学連携研究支援部門等を設置し、大学との連携プロジェクト研究の推進を強化している。その成果もあり、令和4年度は、幼稚園で5件、小学校で5件、中学校で4件、特別支援学校で6件、合計20件の大学連携プロジェクト研究を立ち上げ、取り組んでいる。

さらに、大学と連携した学術研究を推進するため、附属学校部研究員制度を設けている。これは、令和元年度に「神戸大学附属学校部における研究員の称号付与に関する要項」を制定し、附属学校園に所属する教員のうち、優れた研究能力を有すると認められる者に対し、研究員の称号を付与することにより、奨励研究以外の科学研究費補助金への応募や研究分担者になるなど、研究活動を広範かつ円滑に行うことが可能としている(現在は17名に付与)令和2年度からは、附属学校教員による奨励研究以外の科学研究費補助金の応募も行われている。現在は4名の教員が分担者も含めて奨励研究以外の科学研究費補助金を獲得している。

4. 大学連携研究の今後

神戸大学では、今後「みらい開拓人材育成」として、小中高を見通して、地域とも連携しながら One Kobe Family として卓越人材・博士人材の育成を目指すことにしている。附属学校園としても大学のその目標を共にし、附属学校園の培ってきた教育研究を基にしながら、大学と連携して博士課程人材育成に取り組むことにしている。その一環として、令和5年度には、高大接続卓越グローバル人材育成センターに主配置されて助教1名を附属学校部に配置し、SSHで取り組んでいる探究学習の指導や計画、それに伴う高大接続並びに大学附属の連携を促進している。

今後は大学に設置される「みらい開拓人材育成センター(現・高大接続卓越グローバル人材育成センターを改組する予定)と連携・協力して、One Kobe Family の一員として、さらに大学と一体となって教育・研究に取り組んでいく予定である。

(神戸大学人間発達環境学研究科教授・神戸大学附属学校部長)